

祝島島の民の会ではすでに反論書の準備ができています。中電に送付後、また紙面をご紹介します。

貴会から、2022年3月11日付け「令和4年1月14日付け文書への反論及び質問書」を3月14日に郵送にて受領いたしました。

令和4年1月14日付けの文書において、当社は、それまでの貴会のご意見を踏まえた上で、貴会が山口地方裁判所平成24年（モ）第36号保全取消請求事件の平成26年6月11日付けの和解（以下単に「和解」といいます。）に係る内容に疑義をもたれているようでしたので、「裁判所において和解条項の内容を相互に確認する機会を設けることも考えています」と述べました。それに対し、貴会として「和解条項の内容を否定しているわけではありません」と述べられていることから、当社が適法に実施する海上ボーリング調査が和解条項に当てはまるとのご認識であることを改めて確認できました。

一方で、海上ボーリング調査が「損失補償を欠いた違法な調査」であるとして、「違法な調査に対して不作為義務を負うはずはありません」とも述べられていますが、これはつまり、海上ボーリング調査が適法な調査ではないため、和解の対象にはあたらないとのご主張であると理解しましたが、異論ございますでしょうか。これについての貴会の認識をお示しくくださるようお願いいたします。

なお、当社はこれまでも重ねて海上ボーリング調査が違法なものではないことなどをご説明しており、貴会におかれましては和解条項を遵守していただきたいと考えますが、依然として双方の主張は平行線の状況であると認識しています。当社としましては、円満な解決に向けて話し合いをしたうえで海上ボーリング調査を実施したく、上述した貴会のご主張に係る点も含め、裁判所において相互に確認する機会を設けることを考えていますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

先月号(3月の報告)で、3月11日付で、祝島島の民の会から、中電に送った反論の文書の要約を載せました。^{それを訂正した}4月27日、中電の弁護士、末岡陽夫、松村和明氏の押印のある文書が祝島島の民の会、代表の清水敏保さん宛に届きました。(短いのごとのま、載せませぬ。)

2022年6月12日(日) 13:30
場所 周南市役所シビック交流室6

次の集まり

4月27日、再び中電から祝島島の民の会へ文書が。

2022年5月の報告



みなさま。樋口英明さんから、安藤さんや祝島島の民の会にメールが届きました。

お変わりございませんか。

今秋から上映される「原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち」のホームページが公開されました。

映画のホームページ
<https://saibancho-movie.com> (予告篇が見れます。)

全国上映のための費用をクラウドファンディングで募っております。
<https://motion-gallery.net/projects/saibancho-movie>

監督の小原さんはこの映画を全国で上映したいということで頑張っています。

皆様の地元の映画館に、この映画を「上映して欲しい」旨のリクエストをして頂きますと幸いです。よろしく願い致します。

樋口英明

代表者 小中 進
〒742-1513山口県熊毛郡
田布施町麻郷 2208
TEL/FAX 0820-55-6291
樋口空(年会費 2000円)
(郵)01590-5-27469
口座名「原発いらん!山口ネットウエイク」
作製・印刷・発送
周防灘の自然を守る会
三浦 翠外

'22.6.1.
「北海道電力泊原発1~3号
機を運転してはならない」
—札幌地方裁判所—



■まちがいがありません。訂正をお願いします。(三浦)
前号、4月の報告(=407号)の小出裕章さんの講演の要約記事の中に誤りがありました。申し訳ありません。
・P②の右から8行目「本島に投下された原爆のウランの量は80g」は800gに。
・P③の右から13行目、「その他の汚染地に今も何百人が捨てられたまに」は「何百**人**」に。
・P③の左から11行目「地下に**濾水遊**」は**壁**に。

田ノ浦ヘピクニック&ビーチクリーンへ行こう！(5月の報告)

5月19日(木) (5月12日が雨天だったため延期)

上関町田ノ浦へ 宇部・周南・下松・平生・柳井・田布施から大人7名、子ども2名、ヤギ1頭が集まりました。ゴミは、35L袋10個分も集まりました。

私は、海の近くに住んでいることもあり、生命の源である海と陸をつなげる浜に堆積するプラスチックなどの漂着ゴミを日頃からあちこちの浜で見かけています。田ノ浦でもボーリング調査の時祝島の漁船を浜から見守りながらも漂着ゴミの多さにうんざりしていました。海上に行く術はないけど、今の私たちにできることは、足元に落ちているゴミを1つでも拾い集めること！この行動も海を守ることにつながる！そう思って一緒に行ったお母さんたちと田ノ浦を訪れるたびに、ビーチクリーンをしました。

このこともきっかけになり、今年3月11日の中国電力事務所前での集会の後に 河本さんから連絡があり、このピクニック&ビーチクリーン企画を考えました。

私は、上関町田ノ浦は、原子力発電所の建設予定地(争いの場)ではなく、豊かな自然・海、美しい浜として、未来の子どもたちに残したいと思います。原発反対のために行く場所ではなく、自然を感じて、楽しむ場所であってほしいのです。

今後は、この活動を2か月に1回のペースで続けていく予定です。上関町田ノ浦は、何度でも訪ねたいそんな場所です。次回は、7月下旬の予定です。子どもたちは夏休み。海水浴もできるかな？みなさまのご参加をお待ちしております。 原 真紀

5/20 中国電力上関原発の建設 計画に反対する人たちが19日、予定地の上関町長島の田ノ浦海岸を掃除した。これまで抗議行動の時に現地を訪れ、海岸に打ち上がったゴミを見て胸を痛めてきた有志が、海を守る地道な一歩として初めて企画した。県内の9人が参加した。



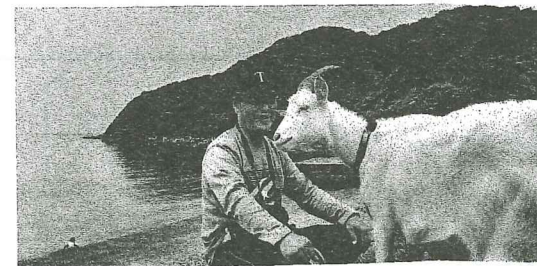
田ノ浦海岸でゴミを拾う参加者たち

中国電力上関原発の建設計画に反対する人たちが19日、予定地の上関町長島の田ノ浦海岸を掃除した。これまで抗議行動の時に現地を訪れ、海岸に打ち上がったゴミを見て胸を痛めてきた有志が、海を守る地道な一歩として初めて企画した。県内の9人が参加した。

参加者は砂浜を歩きながら、カキ養殖に使うビニールパイプやペットボトル、空き缶、弁当殻などを拾った。厚食を挟んで3時間の作業で、45kgのゴミ袋10袋分がいっぱいになった。帰りは袋を手分けして持ち、30分かけて山道を登って各自の車まで運んだ。掃除を呼びかけた一人で、平生町佐賀の主婦原真紀さん(45)は同町の佐倉島で清掃に取り組んできた。「田ノ浦海岸が争いの場ではなく、子どもたちがきれいな海で遊べるような場所として残してほしい」と話す。今後は2か月に1回開催予定という。中電は昨年まで3年連続で、建設に向けた海上ボーリング調査を田ノ浦沖で試みたが、反対する祝島の漁師たちが現場に船で集まり中断した。(山本祐司)



祝島と安藤さんとヤギ。



小中さんとヤギ。



第1回「田ノ浦へピクニックへ行こう」に参加者で記念写真を撮りました。

子ども2人大人7人、ヤギ1頭。

(これらの写真のカラー版は小中さんのブログにあります)

| イベント外 | 日時 | 場所 |
|---|-------------------------------------|--------------------------------|
| 朝鮮学校への補助金復活を | 6月8日(水) 11:30 | 県庁前広場 |
| 岩国愛宕山を将監座り込み | 6月11日(土) 10:00~ | 愛宕山神社前 |
| 原発いん山口ネットワーク集会 | 6月12日(日) 13:30 | 周南市役所 会議室6 |
| 総のり行動やまこ5県民集会 講演 伊藤 真 弁護士 「憲法9条をなぜ変えようか」 (はいけたいのわ) | 6月12日(日) 14:00~16:30 (無料) (連) | 山口市民会館 大ホール 083-922-1841 |
| 原発事故避難者訴訟、国の責任についての判決 | 6月17日(金) 14:30~ | 最高裁 |
| 参議院議員選挙告示 | 6月22日(木) | |
| 上関町田ノ浦の埋立免許期限 | 2023年1月6日 | |
| 伊予 3号弁16回定期検査 | 2023年2月23日~ | |

■ 代表の小中さんが4月16日、宇部の小出裕章さんの講演前に、語りました。

(いのちみらいうべの岡本さんがテーマ起しして下さいました。)

上関原発を止める政治に変えよう 小中 進

(小出裕章さん講演会 2022 での発言)

こんにちは。

ただいまご紹介いただきました上関の現地、30 km圏内の田布施町から参りました原発いらん！山口ネットワークの代表をしております小中進です。

今日は宇部の皆さんが、小出裕章さん講演会を開催していただきました。明日は小出さんも田布施町にお出で頂いて、30 km圏内の皆さんも楽しみにしています。これも宇部市民

の皆さんの上関原発を止めたいという思いが通じて実現したと思っています。

ちょうど原発問題が浮上して、今年で40年になります。私は地元ですので、40年前からどうも上関の動きがおかしいといろんな声があり、地元の皆さんと一緒に運動しています。

原発問題は皆さんご承知のように、ほとんどの皆さん70~80%以上の方が、「原発はNo」という思いをもっています。これは、40年前も、また今も変わっていません。どこに行きましても、アンケートを調べますと「上関原発はいらない」が多数です。

とくに11年前の福島原発事故のとき、あのときには圧倒的に「あんな怖いものとは知らなかった」と、地元でも推進をしていた人たちが「これはいけない」と、いうようなことも言っておりました。

しかしながら、また今、上関原発が建設に向けて動き出しました。私も色々考えてみますと、山口県は特に政治家の力が、政治の影響が大きいんじゃないか、上関の町長選挙、これも町長さんは推進派です。議会の10人の町会議員さんのうち、7人が推進派です。3人しか、反対の人はいらっしやいません。

山口県の県議会はどうかと言いますと、47の定数の反対しているのは、うちわずか6名です。

これだけ多くの県民の皆さんが「上関原発は建てることは必要ない」と思っている、山口県の政治は逆に推進しております。山口県選出の国会議員、全てが上関原発に賛成です。

このようなことで今、現地は着実に建設に向けて動いております。11年前の埋立工事を進めようと、その当時には中電の上関事務所には100名以上の中電の社員がいて四六時中上関を駆けずり回って推進工作をしておりました。

今は福島原発事故以降、工事が止まっておりますが、表向きだけです、これは。

裏では着実に原発建設に向けての巧妙な工作を続けているのが実態です。

一昨年には四代につながる県道、だいたい町道を県道に格上げして県で拡幅や修復工事をしてもらうのが一般的ですが、上関町では県道をわざわざ、町道に格下げをしまして、そして今中電のお金で突貫工事ですよ、一昨年には13億円でわずか数百名の四代地域の住民のためにとって、トンネルを作っています。いま、そのつながる前後の道を拡幅工事、これも皆さんの莫大な電気料を投入して原発道路を作っているのが実態です。

それだけではありません、送電線やそのための用地買収、毎日のように中電は皆さんの知らないうちに、着工に向けての準備を行なっています。そして皆さんもすでにご承知のように、ポーリング調査も3年連続、祝島の皆さんの漁業権、いわゆる生活権まで全く無視をして、強行にポーリング調査をやらうとしている状態です。

こういうことを阻止する、ストップをさせる、上関原発計画を中止させるということは、私は無理ではないと思うんです。多くの県民の人たちが声を上げたら、政治的に「原発NO」という人たちの声を政治に活かしていく、そういうことをすれば必ず私は止まると思うんです。

今、山口県で政治的にみましても、投票率が非常に低い。これは今の山口県の政治家に対する、県民の批判だと思うんです。信頼されていないんじゃないか、まったく県民の皆さんの声を期待を担うような政治家がいらないんじゃないか、このように思っています。

そのためには是非一つ、今100番目のサルという映画が上映されましたが、人から人へと伝えて、上関原発はいらない輪を広げていく必要があると、私は思います。

明日は小出さん田布施に来られ、地元の皆さんに詳しい原発問題の話をしていただきます。ちょうど40年目にあたる講演会を機に、上関の原発計画をストップさせる大きな県民の世論を、今日を皮切りにまた起こしていきたいという思いで、今日は参りました。

皆さん次の世代ですよ、今ウクライナでも大変なことが起こっています。次の世代の子どもさんやお孫さんたちのためにも、政治家が上を向いて私たちの話を聴かないとすれば、私たちが変えようじゃありませんか。子どもや次の世代の皆さんのために、大人である私たちが必死で今の社会を責任のある社会にしていこうではありませんか。

そのために私は、皆さんと一緒に頑張っていきたい、地元で声を上げていきたい、このように思います。宇部の皆さん、今からもどうぞお力を貸してください。

頑張ります。どうぞよろしく願いいたします。(2022. 04. 16)

5月26日、「311子ども甲状腺がん裁判」が はじまりました。

大変大事な裁判で、早く傍聴に行けたらいいので、「たんぽぽ舎」通信の傍聴記を載せよう。

5月26日、東京電力福島第一原発事故による放射線被ばくの影響で甲状腺がんになったとして、事故時に未成年で、福島県内に住んでいた男女6人が東京電力に損害賠償を求めた訴訟の第1回口頭弁論が東京地裁で開かれました。

弁護団の主旨説明の後、原告の20代女性が「パソコンで調べた席で意見陳述しました。震災当日は中学校の卒業式だったそう。その後、甲状腺がんが見つかり、治療を受けた後、肺への転移などで手術を2度受け、大学を中退せざるを得なくなりました。

「病院に行っても、同じ年代の医学生とそれ以外の人が、同じ年代なのに、私も大学生だったのはおかしいと思ってしまう」と複雑な胸の内を語りました。「家族に迷惑をかけた申し訳ない」とも言いました。発病したのは彼女の責任ではないのに。

女性は落ち着いた口調ながら、時折悲しみがにみ上げた際には声を詰まらせ涙が止まる場面もあり、最後は「元の身体に戻りたい。そう願っても、もう戻ることはできない。裁判を通じて補償が実現することを願います」という言葉で陳述を締めくくりました。

東京新聞はこの際傍聴席からずり泣く声の漏れたと伝えていて、私もその一人です。この裁判のことを多くの人に伝えたい。勝たせたい。——漆原牧又(たんぽぽ舎ボランティア)

山田耕作さんからこの問題についてご自身も執筆されているブックレットを頂きました。

福島甲状腺がん多発 - 被害原因はもはや隠せない
UNSCEAR 2020 レポート 批判 (科文社 1000円+税)
（原子放射線の影響に関する国連科学委員会）
福島原発事故による甲状腺がんの真相を明らかにする会 著

● 例会の報告 (5月8日)

● 参加地域 東広島市、田布施、光、下松、周南
宇部

● 小中代表より。全国的にかなりコロナが落ち着いて来て日常生活がもどおりつゝあるようです。これからの事をじっくりと話し合っていきたいと思います。

① 現地のようす。小中さんより。

昨日(5/7)草刈りに行きました。ピクニックの前に通うやすいようにしておきたくて、周辺2市4町の皆さんに呼びかけました。

田布施から3人、平生から2人、周南から2人、宇部から2人の参加がありました。

林を抜けて浜に出るところの草を刈りました。中電は全く草刈りをしていないので海岸の上の草も西から東にかけて刈ったのできれいになりました。

「栗の家」のすぐ下のまな板道のところのロープがずれ落ちていたのを杭を打って補強。落葉をよぶるので、落葉をのけて土を掘って階段をつくりました。板で土止めをして、流れないようにしました。

「栗の家」のまわりの草も刈りました。竹藪のところはいいし、草が掘り返して草はありません。



ピクニックで若いお母さん達も来やすい環境になったと思います。

● 原発道路について。小中さんより。

蒲井地区から四代への工事が急ピッチで進んでいる。蒲井の真中を通る道が、途中の1ヶ所をのどろぼろ国道なみの広さに整備された。

トンネルから四代までは舗装工事だけが残っている状況。今まで一番狭かったところもコンボで掘って国道並みの広さになっている。あと2ヶ月もすれば、あのあたりは一変するだろう。

拡幅工事は地元業者がやっている。地元の業者は公共工事が多い中、ぜひぶん助かっているはず。

豊津に入るところの道も間もなく海側に新しく造

つている道が完成する。

● 5月6日に、豊津のこんぶ小屋が火事になった。

● 平生町の役場の庁舎が新築になった。



② 5月12日子足の田の浦へのピクニックは、天気予報が雨なので、原さんと相談して、5月19日(木)になりました。小中さんのブログなどの発信をよろしく。(河本さんより)

③ 小出裕章さんの講演会について。

● 田布施での講演会の主催は、「2市4町及原発議員連盟」と「上原原発のない未来を、柳井地域の会」と「原発いりん、山ロネットワーク」でした。

会計も3者で分担しましたが、まだ各団体での承認が終っていないというので、会計報告は次号に。問題なく終わったことだけ報告します。

④

● 感想その他。

● 山田さんに10センチ見るとCDに撮ってもらいました。まだ予備が残っているので、希望者には送ります。小中まで送ってください。

● 毎日新聞に、記事が大きく載ったので、ありがとうございます。記事が載った翌日私が朝起きると、手をあげた、挨拶する人が多かったぞ。

みんな原発についてのいろんな疑問が湧き出したと思います。

● 宇部でも盛況でした。宇部市民の会では10枚のチケットを郵送し、訪ねて行くのを売った人は30人来てくれた。私の住んでいる舟木から行った人は、翌日会員になつてくれた。

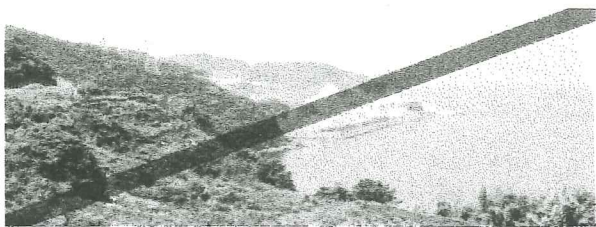
小出さんの話とともにおかつた。疑問が湧きまわりました。美祢市や山口市から来た人もいて、感想文をもらっている。小出さんの講演は大きな世論をつくったと思う。

(浜野さんより)

● 日本の原子力政策では使用済核燃料すべて再処理と決めている。もしトリチウムが海に流せないとすると再処理ができなくなるので、国はトリチウム汚染水の海洋放出にこだわるのだと初めて知った。

第14回伊方原発運転差止裁判の報告 (5月19日)

by 山田



今回は原告側から準備書面23~24 (地震に関するもの)と準備書面25~26 (火山に関するもの)を提出、このうち地震に関するものについて口頭で説明しました。

でたらめな活断層調査

スカスカの音波調査と30kmも離れたところの地層サンプルでごまかす四電

これは、伊方原発の敷地のすぐ前には中央構造線が走っているが、原告はこれが活断層である、一方被告は海上音波探査で佐田岬半島沿岸には活断層はないと主張。しかしこの被告の行った海上音波探査なるものでは活断層かどうかは判断できないと主張しました。

これまでも原告側は被告の行った海上音波探査ででき上がった断面図に非常に疑似信号が多くて精度が悪い不十分な調査だということを指摘してきましたが、今回はさらに別の角度から、被告の行った海上音波探査が、原子力規制委員会の定めた「敷地内及び敷地周辺の地質構造調査に係る審査ガイド」という調査ガイドに違反しているということを何点か指摘しました。

そのうちの一つは、側線の問題。海上音波探査をするときにロープに地震動の受信機をつけて曳航するが、その真下にロープが直線状に並んでできる、これを側線というが、被告の行った古いやり方の海上音波探査では、その側線の真下の情報しか得られなくて、それ以外のところの地下の情報は得られない。そうすると側線から少し外れたところがどうなっているのかということとは全くわからない。それでも、側線と側線がかなりくっついて密になっていれば、ほぼ地下の状態もわかったということになるが、残念ながら被告の行った海上音波探査は側線と側線の距離が約1キロも離れています。真ん中の例えば、500メートルのところには何か凸凹の変形があっても全くわからないということを指摘。

二つには、海上音波探査だけではどの地層の年代が不明で、解明するには海底の地層を直接採取する海底ボーリングでないとできないということ。この海底ボーリングと海上音波探査は、2つがセットになって初めて科学的な信頼性得られるが、被告の行った海底ボーリングは、この調査海域でなく原発から約30キロも東に離れた伊予灘東部神棚沖活断層の資料を取ってきて、それを伊方の海上の調査に当てはめるというでたらめさです。実際に審査ガイドの中でも、側線の真下、あるいは側線の近傍の海底ボーリングを行いなさいということまで明記して定めてあるが、それに大きく違反している、全くでたらめな調査をしています。

次回は7月の21日に予定。まだ出し切れなかった火山に関する準備書面とこれまでほとんど主張できていない避難の問題についても準備を進めておりまして、間に合えば次回に出す予定です。

5



周南市の環境審議会が、トクヤマカントリークラブが12月の太陽光発電を計画していることが、審議中。

・新選知事選挙があります。
5月12日告示、29日投開票です。
・残念ながら現職の花角知事が再選されました。

⑤ その他
・祝島ではそれに対する反論を準備しています。
↓P1
④ 先号に紹介した祝島から中電への反論(3月11日付)に対し4月27日に中電から祝島への回答があった。
祝島ではそれに対する反論を準備しています。

2022年5月の会計報告 - 原発いらん! 山口ネットワーク

| | | |
|--------------|------------|---------|
| '22年3月の報告の残高 | | 330,952 |
| 収入 | 会費とカンパ | 83000 |
| 支出 | 3月の報告作製・送料 | 29,896 |
| | 4月の報告 " " | 24,939 |
| | 4月例会会場費 | 1400 |
| | 5月 " " | 1140 |
| | 講演会分担金 | 16000 |
| | 切手代 | 390 |
| | 振込通知料 | 1540 |
| | | 75305 |

差引残高 338,647
 ・会費とカンパのお振込みをありがとうございました。
 ・年会費は2000円です。
 振込口座(郵)01590-5-27469 (会計三浦)

会計報告

※5月19日の裁判について、山田誠さんの報告です。

伊方原発運転差止の裁判(本訴15回)
 2022年7月21日(木)14時
 〇次回の裁判は9月

裁判のこと

左のページに

■新聞記事より(4/21)

- (4/21朝日)「原発避難者訴訟東電に賠償命令。さいたま地裁。」
- (4/22朝日)「原発変圧器 検査不正。火力発電でも三菱電機、40年で計338台。」
- (4/22朝日)「燃料高騰「電力難」企業も苦境。」
- (4/22朝日)「再エネ普及へ4省横断会議へ経産・農水、国土、環境の4省。」
- (4/23日経)「経産省、脱炭素投資年17兆円必要、送電線増強には500億円と。」
- (4/23日経)「コロナ予備費、9割使途追えず。12兆円コロナ以外流用懸念。」
- (4/23朝日)「建築物省エネ法」改正案決定。22日閣議決定。2025年度までにすべての新築建物に適用。
- (4/24日経)「温暖化膨らむ気候難民。50年に2億人も。」
- (4/26朝日)「原発事故賠償指針見直しも。」

■原発事故の慰謝料の支払額と司法判断の違い

| | 中間指針にもとづく東京電力の支払額 | 最高裁判決による確定額の一例 |
|-----------------|-------------------|----------------|
| 帰還困難区域(50超) | 1450万 | 1600万 |
| 居住制限区域(~50) | 850万 | 1150万 |
| 避難指示解除準備区域(~20) | 850万 | 1100万 |
| 緊急時避難準備区域 | 180万 | 280万 |
| 自主避難者 | ~48万 | ~51万 |

単位は円。かっこ内は避難指示を設定したときの年間放射線量(シーベルト)。最高裁判決による確定額の一例は、2020年9月30日の仙台高裁。

- (4/25日経)「阿蘇山の火砕流10K先まで到達。山口入隊が見え。山口市徳地の工事現場で。」
- (4/26日経)「トルコ、中口と原発推進。」
- (4/27朝日)「温暖化で漁獲量激減。広島県江田島で10年前の2.5割。」
- (4/27朝日)「経団連提言、「脱炭素」へ政府年2兆円支出を、「原発新設も」。」
- (4/27中口)「モバイル原発事故36年、ウクライナで犠牲者増む。」
- (4/27中口)「立入り調査権鳥取県が行使へ。新安全協定を初。」
- (4/27中口)「岸田首相記者会見で、「再生エネルギーの最大限の導入へ、原子力の活用を進めることも極めて大切だ」と。」
- (4/28朝日)「東電汚染水のメタンが漏れになる時期の見込みを2023年春から、同年夏に秋に延びると発表。」
- (4/28朝日)「火災感知器、検定不正。その6割に当たる605台が東電と九電の原発に。」
- (4/28日経)「三菱電機の不正変圧器、原発・新幹線でも使用。」

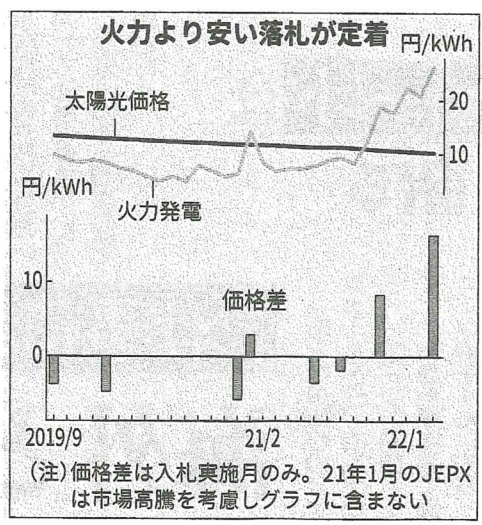
●(4/28朝日)「電気料金 最高水準に。」

■6月の電気・ガス料金

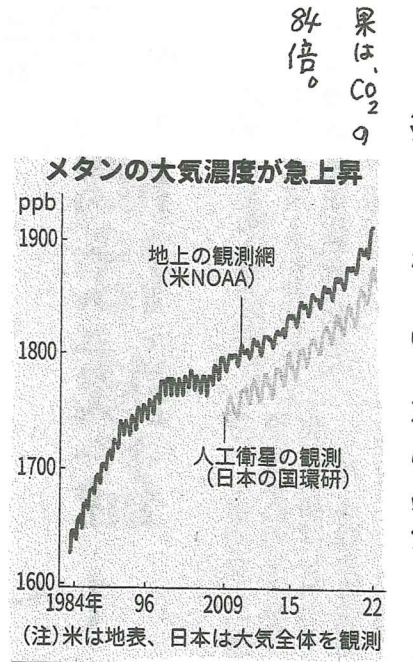
| | |
|-------|---------------|
| 北海道電力 | 8464円(↑1035円) |
| ★東北電力 | 8565円(↑1382円) |
| 東京電力 | 8565円(↑1652円) |
| 中部電力 | 8256円(↑1628円) |
| ★北陸電力 | 7211円(↑607円) |
| ★関西電力 | 7497円(↑773円) |
| ★中国電力 | 8029円(↑1191円) |
| ★四国電力 | 7915円(↑999円) |
| 九州電力 | 7253円(↑797円) |
| ★沖縄電力 | 8847円(↑1543円) |
| 東京ガス | 5808円(↑1111円) |
| 大阪ガス | 6360円(↑982円) |
| 東邦ガス | 6977円(↑1152円) |
| 西部ガス | 6540円(↑850円) |

各社の平均的な家庭の料金で、使用量の想定は一部異なる。★は燃料価格の料金への反映が上限に達した会社。カッコ内は前年6月からの増加額

- (4/28中口)「中電株主の会、脱原発求める6議案を提出。上岡原発計画ストップも。3億9千万株のうち、8万株を株主を持つ7人の賛同を得た。」
- (4/29中口)「中電新社長内定の瀧本氏公見。赤字回復と、脱炭素と原発推進を進めると。」
- (4/30日経)「AEA(口際原子力機構)処理水の影響を「非常に低い」と。」
- 「原子力カマフラのクルタラだ。」
- (5/2朝日)「再生エネ停止要請相次ぐ。企業活動やばい。需給バランスを一手させるため、火力電気が増えるにすぎない。」
- (5/1日経)「太陽光、火力の半値以下に。」

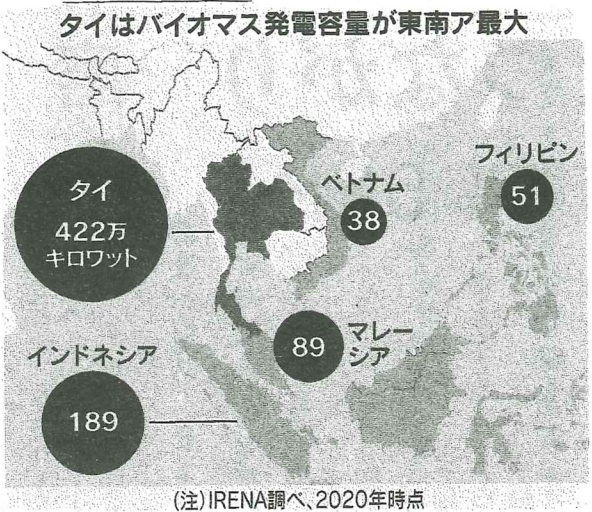


- (5/8日経)「米、原発延命に7800億円。」
- (5/6中口)「処理水の放出口整備工事を開始。福島第一(5/21中口)「ムル島」原研、デジタル組織標準公開。ヒバク直後の犠牲から採取。」
- (5/6日経)「太陽光、電気余り相次ぐ。再生エネ送電網、整備進む。蓄電池の設置も。」
- (5/6日経)「岸田首相、ロンドンのミラーで演説。「再生可能エネルギーに加え、安全を確保した原子力の有効活用を図る」と発表。」
- (5/8日経)「メタン濃度過去最高。昨年、メタンの温暖化効果は、CO₂の84倍。」



(新聞記事からの続き)

- (5/10 朝日) CO₂削減に投資し経済成長。「グリーン・ニューディール」政策再び期待。正規雇用進む林業。
- (5/10 朝日) 日本製鋼所 橋本工場で修繕。タービン関連製品。24年計画。原子力発電所の部材も。
- (5/11 日経) 卸電力スポット、4月27倍。へった太陽光。融通滞る。
- (5/12 朝日) 気候に正義を。右者のうねり。パンクデフシユの「ミネレーション・レフト」。日本企業も石炭火力不参加を決める。
- (5/12 日経) タイ、循環型経済へ着目。バイオマス発電。けん引。もみぐらなど燃料に。



- (5/13 日経) 環境債、エネルギー高騰で逆風。ピーク比2割下落。

- (5/15 日経) 太陽光パネルに自治体新税。総務省の判断は慎重。
- (5/15 日経) ESGの株主提案増加。不正最多583件。監視厳しく。格差、環境に。

- (5/16 日経) 銅不足、脱炭素の壁に。30年に550トン不足。

- (5/17 中口) 福島県葛尾村の復興拠点。来月12日避難指示解除。住民登録30世帯。2024年まで4世帯。人が帰還意向。

- (5/17 日経) 脱炭素。独は燃料代上げ。消費減担う。

- (5/18 中口) 改正瀬戸内法に付随。山口環境相。単食塩類の管理必要。森林育成や水場保護も。

- (5/19 中口) 海面5ミリ上昇。1352年平均。過去最高。ミネーアの世界気象機関(WMO)が18日発表。

- (5/19 中口) 処理水放出計画を了承。「原子力規制委」ハフコムを出し方。 ↓ P ②

- (5/19 日経) EU、脱ロシア。排出削減と両立。再生エネルギー目標。
- (5/19 日経) 米銀総会。「環境」否決相次ぐ。エネルギー。

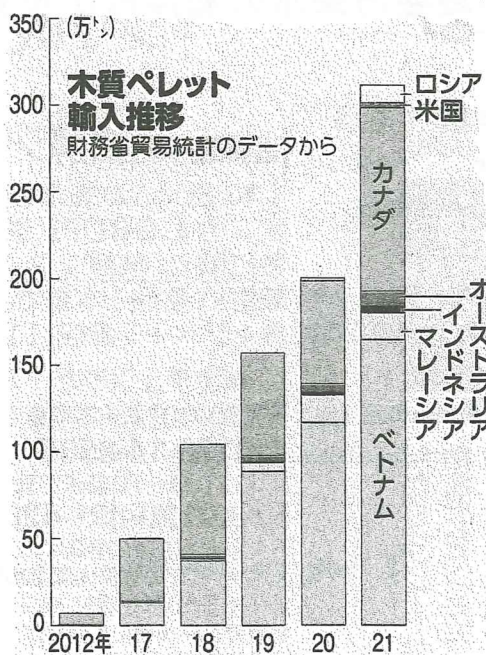
- (5/20 朝日) 脱炭素へ20兆円支出。岸田首相表明。新国債の発行検討。

- (5/21 朝日) 国民民主党。公約に「原発再稼働」「打撃電力」。れいわ山本氏は、参院選、東京選挙区から。

- (5/22 中口) 原発防護は「国の課題」と立地も道県調査。

- (5/22 中口) エネルギー供給不安。福島県。「原発緊急稼働」に賛同なし。

- (5/23 朝日) バイオマス発電が生む可能性。「地域材で燃料を調達するなら、200kwまで」FIT認定を受けたい。発電所のうち530kw以上は100を超え、10万kw超もある。海外から輸入することも前提に建設されている。地域の不用材のみを使うなら環境にもいいが、多くの木を伐採して運ぶなら環境破壊に。世界の非難される。CO₂排出も逆によくならない。



- (5/23 日経) 再生エネ主力化へ競争公正に。(高橋洋初留大科入教授) 再生エネ発電所も送電網に接続する際に、送電会社から高額の増強費を請求される。

- ▲九州地方で出力抑制が多いのは、複数の原発が稼働し、原子力は再生エネより燃料費が高いにもかかわらず、出力抑制の対象外だから。

- ▲日本で化石燃料への投資や原発への期待が高まっているのは、集中型電源や独占体制に意打つされた旧来システムへの転換の表れ。

- ▲再生エネを主力とする分散型システムに構造改革すること、化石燃料に恵まれた一方で、再生エネが豊富で、原発事故を経験した日本のとるべき道。

- (5/25 日経) 釜石漏水で、電力供給1.2割減。老朽インフラ。潜むリスク。全国寿命超え5割。

- (5/26 日経) 三菱電機、品質不正発覚続々。知事偏重、規範意識欠如。電力産業システムでも。

- (5/24 中口) 岸田首相とバイデン米大統領は、エネルギー分野で...小型モジュール炉など、新たな原子力技術での協力も共同声明に明記した。

- (5/24 中口) 福島1号機の容器上台損傷。

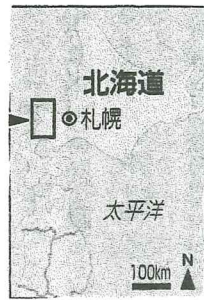
- (5/26 日経) 原発「最大限活用」自民公約明記へ。維新・国民も再稼働訴え。

- (5/27 中口) 甲州核燃料、損賠訴訟。東電被曝との関係を否定。 ↓ P ③

- (5/29 中口) 太陽パネル再資源化。環境省、義務付け検討。

(新聞記事のフレッチ)

- ・(5/30中口)新潟知事、花角氏(再選)。
- ・(6/1中口)泊原発電運転差止の命令、札幌地裁「津波対策不十分」、事業者の資質に疑問。



地域の新聞記事

- ・(4/23朝日)公選法違反のぐるり山口県調査。取戻回答が、ベクレ塗塗り、情報公開請求開示の拒否。
- ・中電は深いのだ。

- ・(4/28朝日)山口市が一転、取戻調査へ。公選法違反事件受け過去10年対象に。

- ・(4/29中口)公選法違反事件受け、県の研修。管理取次人学ぶ。元検察官で弁護士の早崎裕子氏が講師。早崎氏は「公務員が、今まで県庁内で堂々と政治活動をしている地域はない」と。また「県民の目を気にする視点の希薄」とも。

この件は県民として見ると全く終っていない。まよおろ者の目が入っていない。県内、各市町村でも同じことが行われているにらみ、いと護もが思っている...

- ・(5/10中口)中電が電源開発(パワー・東京)と出資する大崎ケルジエン(広島県大崎上島町)最終試験へ。石炭ガスから出る水系を扱い、燃料電池で発電する。90%以上のCO₂を回収する。

- ・(5/10中口)GWの出力制御5日間。中電NW、好天で電気が余る。

- ・(5/11中口)中電火力発電CO₂削減新計画、非効率な施設は廃止。

- ・(5/21中口)高齢化の漁師町に新風。上岡町に、移り住んだ上田健悟さん(29才)。漁師として独り立ちし、3年目。兵庫県宝塚市出身。

「自分が漁師として成功し、魅力を感じた若者が後に続くとすれば」と町の未来を見据える。

- ・(5/24中口)中電、3火力発電所の々基廃止。水島発電所(倉敷市)2号機、下松発電所(下松市)下関発電所(下関市)。

- ・(5/10中口)中国ウインドファームを巡り、地元住民グループが山岡國中で21日、勉強会。先行事例あり、風力

発電考える。

住民グループ「錦と吉賀の風力発電を考える会」

吉村健次代表 090(2006)9980

- ・(5/25中口)夏の参院選、連合山口、止定憲、口民の候補推せんはせず、共に「支持」に。

鳥根一原発周回の記事

- ・(5/14中口)鳥根一原発に外部業者、期限切れ身分証書き換えへ入構。

- ・(5/20中口)鳥根一原発に立ち入り、鳥根、鳥取県、松江市、火災防止策確認。

- ・(5/23中口)鳥根知事2号機視察。原発再稼働控へ、安全対策確認。

- ・(5/25中口)鳥根知事、2日に判断表明。2号機再稼働昇議会本会議で。

- ・(5/26中口)偽造免許証示し原発入構の疑い、松江省、目を逸す。

- ・(5/27中口)鳥根県議会議が正式同意。一原発2号機再稼働、傷必要不可欠と結論。賛成、28、反対5。

- ・(6/2中口)鳥根知事、鳥根2号、再稼働に同意。

「汚染水」パブコメを出そう。5/18原子力規制庁が計画を了承。誰も同意していないのに許さない。



海洋放出のための審査書案は撤回を！

パブコメ出そう！ 6月17日まで

福島第一原発 ALPS処理汚染水の海洋放出反対

◇パブコメ期間：5月19日～6月17日（金）

◇パブコメはこちらから出せます（パブコメ対象文書はこちらにあります）。

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=198022201&Mode=0>

◇パブコメ提出時の注意

①上記の画面から、「意見募集要領」をクリックして読み、元の画面にもどり、左下の口にチェックを入れる。②意見記入後は、左下の「私はロボットではありません」にチェックを入れる。氏名等は任意。

◇パブコメ対象文書（ALPS処理水の海洋放出関連設備の設置等）に係る審査書案

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000235849>

この問題に全力で取り組んで

いっしょに解決の糸のホムロージ29。何を書かなくても。

http://www.jca.apc.org/mihama/fukushima/osensui_pubcome20220529.pdf

ネットがしかなければいけないのも腹立たしい。

目からウロコ“戦争・平和” 隣の国との付き合い方！

丹羽宇一郎
日中国交正常化50周年
**住所変更はできない。
この先も隣国なのだから、
喧嘩しても仕方ない。**
日刊ゲンダイ・2022年2月18日

注目の人 直撃インタビュー

今年2022年は日中国交正常化50周年。1972年9月29日、当時の田中角栄首相が北京で周恩来首相とともに「日中共同声明」に調印してから50年の記念すべき年なのだが、お祝いムードはなく、日中関係はいまや戦後最悪にまで冷え込んでいる。それは政治や外交の現場だけではない。日本国民の対中感情の悪化も極まり、世論調査では9割が中国に良い印象を持っていない。米中対立のエスカレートに伴い「台湾有事」も語られ、不穏な空気も漂う。現状を憂い、永続的な日中友好を願う元中国大使に話を聞いた。



▽にわ・ういちろう 1939年、愛知県名古屋市生まれ。名古屋大学法学部卒業後、伊藤忠商事に入社。98年社長に就任。2004年に会長。豊富な中国人脈が注目され、10年6月から12年12月まで民間出身として初の中国大使を務めた。「戦争の大問題」「習近平の大問題」などの著書多数。最新刊は編集・解説した「現代語訳暗黒日記」(清沢冽著)。(写真出典：インターネット)

米中対立は茶番劇、 乗っかってはいけない

冬期
—開催中の北京^{冬期}五輪では、欧米各国が外交的ボイコットをし、日本も政府関係者を派遣しませんでした。この状況を、どうぞ覧になっていますか？

私自身、五輪には全く関心がないわけではありませんが、政府関係者が欠席ということもあり、関係者以外はいつもと違う感じを持っておられる人が多く、国を挙げてという日本の元気が今一つという印象を受けます。



習近平国家主席 (出典：インターネット)

—日本の世論の9割が中国に対してよい印象をもっていない、ということですからね。

どうして中国に良い感情を持ってないかという、一つは中国を未だ侮蔑しているからではないでしょうか。「シナシナチャンコロ」という言葉があるじゃないかというように。

「シナ」という言葉は、司馬遷の「史記」などを読みますと、紀元前3世紀ごろにあった「秦(シン)」という王朝が「シナ」になっていったので、必ずしも侮蔑する言葉ではないんです。

しかし「チャンコロ」というのは一体何なんだ、とお金のことを「チェン」って言ったんです。それがいつの間にか「チャン」に変わった。それに「コロ」が付いて「チャンコロ」。要するに、小さなお金がコロコロする連中、という意味で、「小さくて取るに足りない」という侮蔑的な言葉になった。

2つ目は、最近の中国の政治的な尖閣への威圧的行動や一部の人権侵害報道に、どこか嫌悪感や威圧感を抱くようになった人がいる気がします。しかし、中国は今や世界第二の経済大国だし、貿易では世界一の国となっています。

時代も違えば、また報道だけで中国の事を軽蔑したり、怖がったりする必要はないでしょう。いろいろな意見を聞いて、現場を見て考えましょう。

—中国大使の時代に中国全土をほぼくまなく歩き回ったそうですが、新疆ウイグル自治区の人権問題については、どうお考えですか？



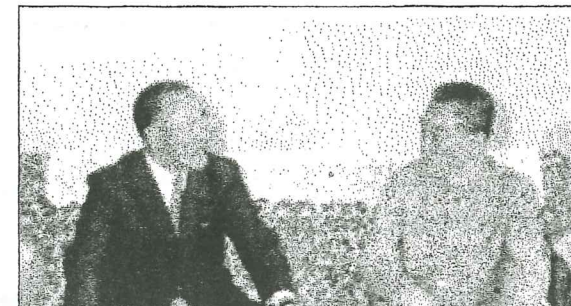
新疆ウイグル自治区の地図 (出典：インターネット)

私が新疆ウイグル自治区を訪れたのは、2010年か11年ごろです。今から10年ほど前ですね。

中国政府から「ウイグルの人たちに会ってくれ。会って話を聞いてくれ」と言われました。そりゃあ行けば、良いことが多いですよ。

中国語を話すウイグル族のトップの人が、非常に丁寧に我々をもてなしてくれました。

新疆ウイグル自治区では、学校で中国語を教え、ウイグル族の言葉は教えないと怒る人がいますが、自治区の住民の半分は漢民族ですから、中国語を話せなければ、中国人と話すこともできません。



左から田中角栄首相、周恩来首相 (1972年9月)
出典：nippon.com より

—今年が「日中国交正常化50周年」です。しかし、日中関係は冷え切っています。

まずははっきりさせておきたいのは、米国は台湾問題で中国と茶番劇みたいなことをやっているということです。巷間言われているような「台湾有事」となって、台湾のために米国の軍隊が台湾に入ってしまったとしても、結果は見えている。米国は絶対に勝てません。

米国は世界全体の軍事力と言えば、中国の3倍ぐらゐの軍事力があります。しかし、対ロシアなど欧州、中東、アジアにも軍隊を展開しており、東南アジアや台湾海峡には、中国に勝るような軍事力を持っていない。戦闘機などの数を見れば、それは明確です。米国も中国には勝てないことが分ったうえで、ちょっかいをかけている。米国の威信のためです。

—そうすると、日本は対中国でどのような対応をすべきでしょう？

国家副主席・習近平(現国家主席)は私に「住所変更はできませんよ。これから何百年も、隣国としてお付き合いしていくのです。」と言いました。喧嘩しても仕方ないでしょう、という意味です。

たとえば米国が台湾有事で日本に協力を求めてきたとしても、日本は茶番劇だということを頭に入れて行動する必要があります。米国から「おい、ちゃんと台湾を支援してやってくれ」と言われても、真に受けて乗っかってはいけません。日本は独立国です。

米国には「いやいや、アメリカさん。それは分かりませんが、日本は中国と、今後も何百年と隣国として仲良

くやっていくのだから、我々には簡単に応援できません。武器を持って戦うのはお互いやめてください」と言えばいい。隣国というのは往々にして仲の悪いものです。

しかし、歴史的にずっと戦争ばかりやっていた日本と中国が、この50年は平和にやってきたのです。こんなところで武器を取ってはいけない。

—外務大臣ですら訪中しにくい、という今の日本の雰囲気はおかしいですね？

日本も中国も頭の良い外務大臣ですから、お互いに茶番劇だと分かっていると思います。

この先の50年も平和に「やっていくためには、日本も茶番劇をやればいいんです。

「中国と喧嘩なんかしたくないよ。でもアメリカの顔も立てないといけないから、君たちもそうしてくれないか」と、お互いに話合いです。

大事なものは喧嘩や戦争ではなく外交です。できれば日中に韓国も入れて3各国で話が出来ればいいのですね。

—現状は、そうした平和な方向とは「逆に進んでいるように見えます。

武器を持てば使いたくなる

日本で今一番の懸念材料は、米国の言いなりになって軍事費を増やしている事です。

我々は武器を持てば持つほどに、武器を使いたくなるものです。良いおもちゃを持つと、それで遊びたくなる子供と一緒に。これが「戦争なんです。

今の若い人が何とっているか。「年よりや大人は、あちこちに戦争の種子みたいな物ばかり作るだけ作って、食い散らかしたままにげるのか」と怒っていますよ。若い人たちに、そう思われないような国にしなければいけません。

—日本国内で大きくなる「反中感情」については、丹羽さんが編集・解説された「現代語訳 暗黒 日記」(外国評論家・清沢冽が太平洋戦争中に帰した日記)で指摘されています。戦時と似た空気感があります。「多数が同じ方向を向くのはあまりよろしくな

い」とお書かれていました。

日本はやはり少数民族で日本人ばかりですから、権限が不明確で、誰も責任を取らなくていいような言い方で物事が進められる。それは戦前も今も変わっていません。

「きっと天皇はそういうつもりだよ」「総理はそういうつもりだよ」「社長はそのつもりだよ」で決まっていく。

実際には、総理も社長も何も言っていない。言って失敗したら責任を取らなきゃいけませんからね。誰も決定をしないのに「そうだろう」って決めてしまうわけです。これでは日本は世界ののけ者になってしまう。

SNSではなく、自分の目で確かめる

SNSとかそういうものばかり信用して、「スマホではこう書いてあった」「SNSではこう言っている」ではダメ。自分の目で確かめ、自分で考え、自分でこうするんだと決める。そうした姿勢にならないと、いつまで経っても日本は良くなりません。

—習近平国家主席が、今秋の党大会で異例の3期目に突入するといわれています。習主席については、どんな印象をお持ちですか？

習近平は頭の良い男です。いろんなことを念頭に置いて、「これをやってくれ」と指示し、「こういう報酬を約束する」「やらない奴は「罰だ」と信賞必罰を実行しています。日本のように「まあ仲良くやってよ」では、14億の民は統治できません。まずはお互いに信頼し合って、良いものは良い、悪いものは悪い、というのが、習近平の考え方だと思います。中国との付き合い方の肝もそこにある。人は自分のかがみ。あなたが人を信頼する。人もあなたを信頼する。平和に暮らしていくためには、自らまず平和の第一歩です。

(利き手=小塚かおる)

参考資料

1972年 日中共同声明・国交正常化

法学館憲法研究所 H. T記(抜粋)

戦後の東アジアの歴史は、日米中ソ相互のパワーポリテックスが色濃く支配してきました。1971年7月に発表されたアメリカのニクソン大統領の訪中宣言で米中の関係改善の動きが突然表面化しました(ニクソンショック)。翌年2月のニクソンの北京訪問で、アメリカは中華人民共和国を中国の唯一の合法政府として認めました。対米従属一辺倒で中国を敵視していた日本はあわてました。

アメリカの狙いは、中ソ間に楔を打ち込み進行していた離間をさらに促進すること、中国のベトナム支援を止めさせることなどにありました。一方中国側は、台湾は中国の一部であると認めさせること、アジア地域で日本が軍事的・経済的に強くなり過ぎないように日本を牽制すること、さらには、中ソ間では政治路線の違いと領土論争を巡って緊張が高まっていました。

69年、中ソ国境のダマンスキー島(中国名珍宝島)で大規模な軍事衝突が発生。衝突と前後してソ連の指導部内では「中国が核大国になる前に、核兵器で北京などの主要都市を攻撃する」という軍事路線が台頭、ホットラインでニクソンに、核攻撃した場合の承認を求めました。しかし、中国が倒され世界が二極化されるとソ連の強化につながるなどを懸念したアメリカは中国をつぶすのは下策と見なして承認せず、ソ連は対中核攻撃を断念します。中国側は、病気で余命が少ないことを悟った周恩来首相がアメリカと手を結ぶことでソ連の脅威を防ぐ道を選びます(加々美光行・愛知大学教授「日中国交正常化」 朝日新聞「この国のゆくえ」所収)。

しかし、米中間はあくまで関係改善に留まり、国家関係の樹立には至りませんでした。そこで米中関係を後戻りできなくするためにも、中国は対日関係の正常化を望んでいました。

一方、日本側も同様の状況にあったため、72年7月、自民党の総裁選に勝利した田中角栄首相は、早速同年9月29日、中国を訪問して周恩来首相との間で、「日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明」に調印。これにより両国の外交関係が樹立しました。

問題点は主に4つありました。①日本側は、1952年の「日本国と中華民国との間の平和条約」の締結によって日中間の戦争は終了したとの立場をとっていましたが、中国側は続いていると主張していました。この点については、条約第1項で、「不正常な状態は、この共同声明で終了する」と宣言されました。②中国の合法政府がいずれであるかについては、日本は、中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認する、台湾は中華人民共和国の領土の不可分の一部である旨を認めました。

難関は③と④で、③日本が戦争で中国側に与えた莫大な損害については、中国は、日本に対する戦争賠償の請求を放棄することを宣言することで決着がつけました。条約締結を急いだ中国側の大幅な譲歩であり、その後、中国の戦争被害者から日本政府や加害企業に対して損害賠償の請求が続くこととなりました。

さらに、④日中戦争に対する日本側の姿勢が重大な問題になりました。田中首相が、歓迎夕食会で「多大のご迷惑をかけました」と述べたことが中国側の怒りを買ひ、共同宣言では「過去において日本国が戦争を通して中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する」と表明することになりました。日本側は「申し訳なかった」と謝罪を明言することを拒み、④と③は、問題の先送りとなり、しこりを残しました。

問題③と④については、中国側は従来、国民の世論を背景に、歴史認識で日本と妥協する意図はなく、損害賠償請求権も留保すると言明していました。

しかし、上記のパワーポリテックスが共同声明を可能にしました。請求権放棄には、「両国人民の友好のため」という論理が用いられました。

一方、日本側では、戦争責任を直視して真摯に謝罪する方向で国交の正常化運動を担ってきた人たちが取り残される形で正常化が図られました。すなわち、一つは折からの中国の文化大革命に従順な勢力、もう一つは日中貿易に伴う利権を目当てとする勢力が田中政権を後押しした経緯があります。

政治を担い、歴史を作る主役は主権者である両国民です。国民同士の理解を深めるために、率直で多様な情報伝達の促進と議論の進展が不可欠です。

2022年5月5日作成 「アヒンサー」
(目からウロコ FC2 アヒンサー)

*アヒンサーとは、サンスクリット語で「殺されたくない、殺したくない」という意味です。